



早いもので1学期も残り2週間余りとなりました。7月1日に行った授業参観では、猛暑日にもかかわらず、88%の保護者の方にご参観いただきました。コロナ過でもあり、どのような形で実施するかを試行錯誤しながらでありましたが、本校の教育活動にいつもご協力いただいていることに、心から感謝いたします。梅雨も最短で終わり、台風も来るなど季節の風物詩が年々変化しているように感じます。今の子どもたちが大人になるころにはどのような世界になっているのかを想像すると、変化に対応する力の基礎を育てることが大切なポイントになると考えています。

根っこづくり その2

今年も5年生の子どもたちが地域の方の協力をいただいて田植え体験をしました。田植えの前には田んぼを提供してもらった地域の方々に、田植えや米作り、農業に関するお話をさせていただきました。苗の持ち方や植え方、日本の米作りの様子などを丁寧に説明していただき、初めて知ることが多く、子どもたちからも驚きの声が上がっていました。



学校から2、3分歩いたところに田植え体験の田んぼがあります。当日はとても暑い日で、熱中症も心配されたのでできるだけ短い時間でお願いしました。機械で植えてもらったその間を各学級で担当して並んで植えました。いわゆる“じゅったんぼ”に裸足で入る感覚は何とも言えないものです。最近では地面に裸足という場面も少なくなってきました。

私の実家でも米を作っています。米作りの中でも大きな作業である田植え。この田植えをするだけでもかなりの準備が必要です。

苗づくりでは、苗箱に泥を敷いて種をまき土をかぶせます。我が家ではこれを300箱作ります。これを育てる苗床も必要です。畔を作り、水を入れ代掻き^{しろかき}をして苗箱を並べます。鳥に食べられないようにビニールパイプと寒冷紗^{かんれいしゃ}で小さいハウスを作ります。それから苗が育つ1か月の間、ポンプで水を入れます。その間に田んぼではトラクターで耕し、肥料をまき、水を入れ代掻きをします。どれも1日でできる作業ではありません。こうやって苗の準備と、田んぼの準備がそろってはじめて田植えができるようになります。これから収穫までの作業も加えると、お米が我々の口に入るまでには相当面倒くさいことがたくさんあります。



「大事なことはたいてい面倒くさい。」ジブリシリーズで有名な宮崎駿監督の言葉です。一つのシーンにたくさんの手間をかけて、たくさんの人を感動させる作品を作った人の言葉には重みがあります。面倒くさいことをやった経験がなければ、物事を改善しようという想像力は育ちません。「面倒くさいことこそ大事なこと」と考えて、今、子どもたちに面倒くさい経験をさせることが、社会の変化に対応する力につながるのではないかと考えます。